

第 3 回

姫路市経済振興ビジョン検討懇話会 姫路の10年後のあるべき姿 更新案

令和8年（2026年）5月29日（金）

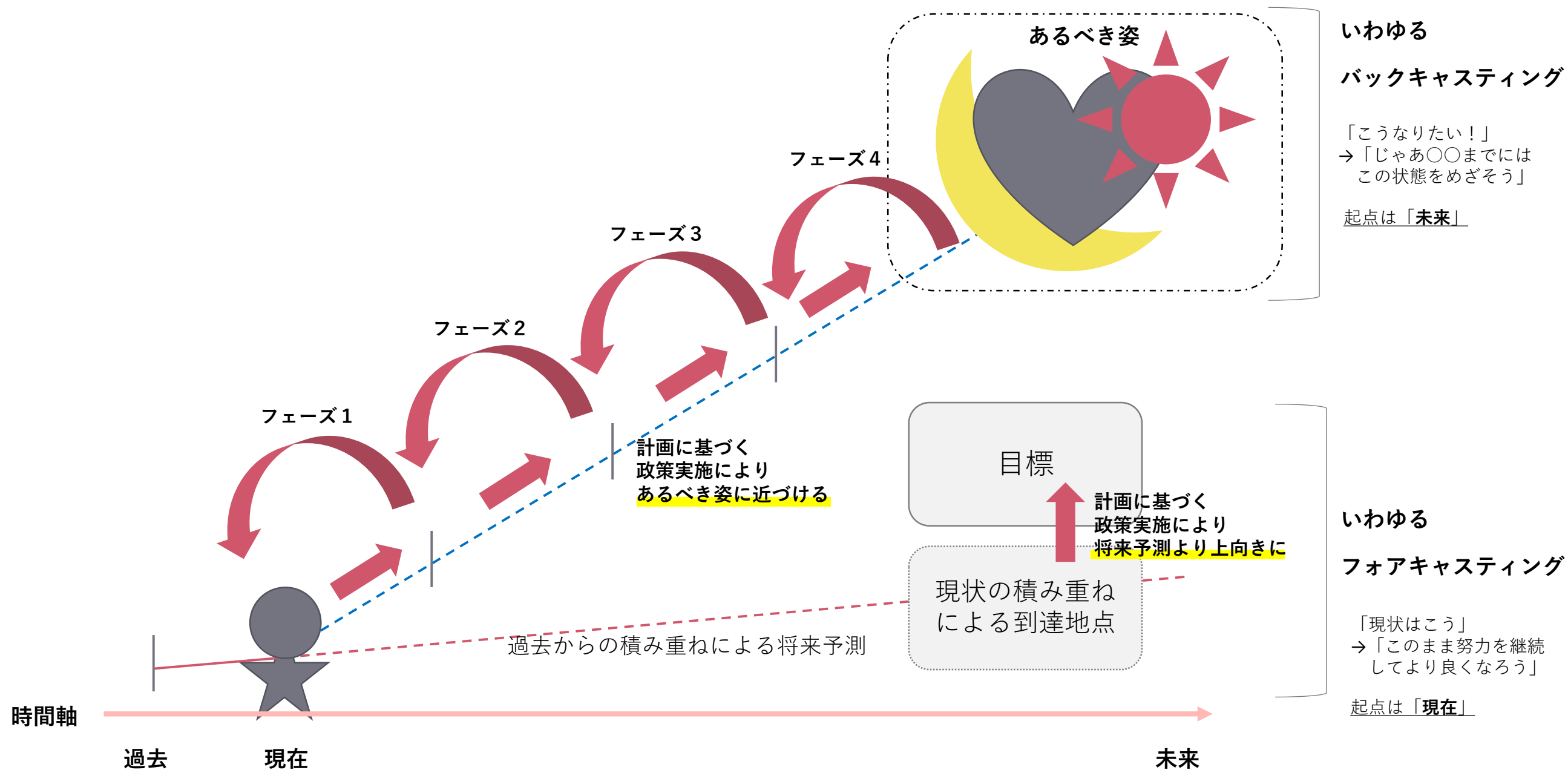
姫路市 観光経済局 商工労働部 産業振興課

本日ご確認いただきたい点

- ① 全体像・方向性は妥当か
- ② 姫路市の現状をふまえ、整合性がとれた計画となっているか
- ③ 全体像並びに方向性を踏まえたうえで、政策（≡行政等が取り組む事業）へ落とし込む際に必要な視点は十分か

「あるべき姿」の設定手法：バックキャスティングとは

- ・ 姫路市の将来を、現在のデータによる積み重ねによる予測から一歩踏み出し、「こうなりたい」を含んだ「10年後のあるべき姿」を設定
- ・ 目標に至るために踏破すべきステップを「10年後のあるべき姿」から逆算
→バックキャスティングによる目標設定



「あるべき姿」の設定

- 人口減少という労働力の量的減少を受け入れながらより一層の経済成長を目指すには、新たな価値を生み出す必要がある
- 既存市場を打ち破る価値を生み出すには、未知の領域へ挑戦することが重要である
- また、労働力の観点からは、経済成長もさることながら、「住みやすさ」「働きやすさ」という生活者目線でのくらしの充実も欠かせない



10年後のあるべき姿

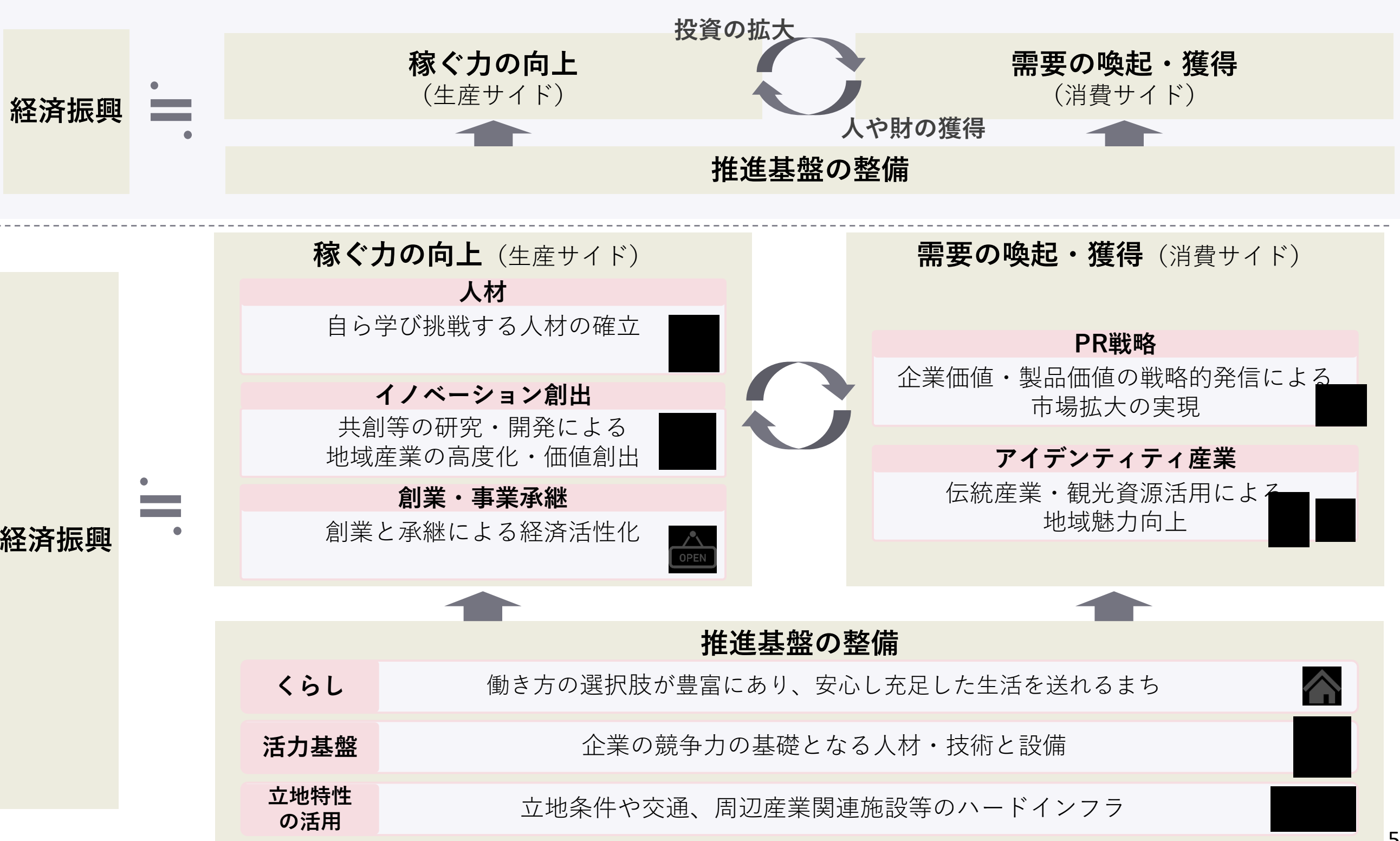
挑戦と新たな価値が循環する
働きやすく暮らしやすい姫路

参考：支援団体提言書における「10年後のあるべき姿」

姫路 商工会議所	人口減少や産業構造の転換が進む状況においても、経済規模と活力を維持・発展させることができる産業基盤を備えている
姫路市 商工会	「都市部の牽引力 × 北部・離島の底力」で、人口減少下でも豊かさを実感できる姫路市
播磨 経営者協会	持続的に成長する産業基盤と、多様な人材が活躍できる労働環境を備えた、かつ人々が住み続けたいと感じる魅力を兼ね備えた、選ばれる産業都市
連合兵庫西部地域 協議会	働きやすく、子育てしやすく、高齢者にも優しいまちづくり

経済振興を支える要素（図解）

経済振興を支える要素を、総合計画の行動計画から派生させた「暮らし」「人材」「イノベーション創出」「創業・事業承継」「活力基盤」「PR戦略」「アイデンティティ産業」「立地特性の活用」の8つのカテゴリーに分類



現状

①くらし

- 住みやすさが評価
- 「働きやすさ」がより重要に

②人材

- 事務職余剰→専門職等への転換の必要性

③イノベーション創出

- 多様な企業が集積
- 市内に産学官金が存在

④創業・事業承継

- 個性的なエリアが複数ある
- 起業による新陳代謝

⑤活力基盤

- 生産性向上が最重要課題

⑥PR戦略

- 外需確保の重要性の高まり
- 姫路城以外の魅力たくさん！

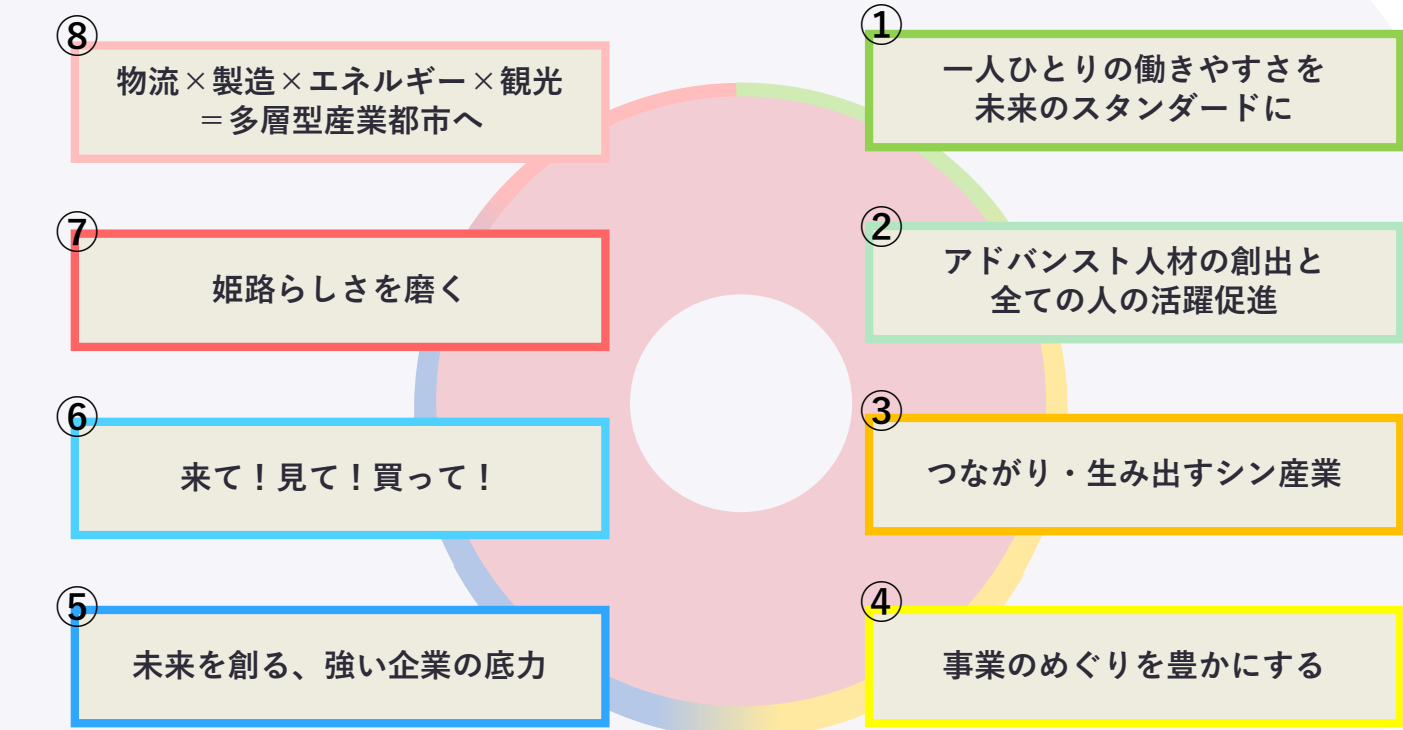
⑦アイデンティティ産業

- クラフトCity
- OSAKA plus oneで選ばれる

⑧立地特性の活用

- 交通網が発達
- 災害が少ない

中期方針



10年後のあるべき姿

挑戦と新たな価値が循環する
働きやすく暮らしやすい姫路

政策

くらし	人材	イノベーション 創出	創業・ 事業承継	活力基盤	PR戦略	アイデンティティ 産業	立地特性の 活用
1. 企業の働きやすい職場環境づくりを支援	1. 経済団体と協力し、社内人材養成講座を開催し市内企業の人材育成を支援	1. イノベーション創出事業により産官学金が連携する枠組みを強化し新製品開発等を推進	1. 経済団体と協力し創業セミナーを開催し、起業家の事業実現を応援	1. AIによる業務改善を支援し、市内企業全体の生産性向上を図る	1. 市内企業の海外見本市出展を支援し、販路拡大による外需獲得を支援	1. 伝統産業への支援を通じ、地場産業の活性化による地域の魅力形成を推進	1. 強靱な物流ルートを活かし、企業の立地を促進
2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○	2. ○○○○○○○○ ○○○
3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△	3. △△△△△△△ △△△△△△△

第2回検討懇話会での意見の反映方針

カテゴリ	第2回検討懇話会での意見		「あるべき姿」への落とし込み
全体	多くの人に当てはまる最大公約数的な文面だが、これまでと同じようなビジョンを策定するのか、勇気を出して目指す姿を新たに定めるのか、選択する必要がある	→	将来にわたって実施する経済振興関連の事業が当計画に集約されるイメージのため、どうしても一点集中な構成にはできなかった 一方で、8つのカテゴリにおいては目指すべき方針をできるだけ具体的に記載し、方向づけを行った
全体	総合計画の「4つの行動指針」を経済計画にそのまま当てはめると違和感がある	→	4つの行動指針から経済計画に馴染むようそれぞれ2つのカテゴリに分化、合計8つのカテゴリを設けそれぞれに方針を明示
全体	飛躍した10年後の「あるべき姿」を定め、そこからバックキャスティングを行ってもよい	→	提言書から見えてきた各支援団体の見据える10年後のあるべき姿と齟齬が無い表現に落とし込んだ 一方で、その下位にくるカテゴリにおいては、バックキャスティングにより中期方針を構築しつつ、姫路市内外の企業並びに労働者に納得いただける実効性のあるビジョンとするため、全体的には地に足ついた表現とした
全体	姫路らしさが見えない 課題を並べ立てて方針を決めるのも良いが、姫路らしさを前面に押し出して方針を打ち出しても良い	→	中期方針検討の際に現状を「課題」「課題（姫路独自）」「姫路市の特徴」の3項目に分けて整理することで、姫路の強みを意識した方針とした
全体	先進的なキラキラした概念を掲げることもよいが、姫路ならではの泥臭さも重要	→	「難解なフレーズは忌避感を生みかねない」とのご指摘と認識したうえで、中期方針は可能な限りシンプルな文言を採用した また、「PR戦略」には城下町の商人らしさを、「アイデンティティ産業」には職人の寡黙さを含めた
活力基盤	本来工数をかけなくてもよい（＝AI活用等により削減可能な）業務がないかを検討	→	第4回での「政策方針協議」にて検討・協議
くらし・人材	「〇〇支援」等の形で姫路市特有の強みを分かりやすく推し出すことが必要	→	第4回での「政策方針協議」にて検討・協議
イノベーション創出	「イノベーション創出」の具体的なイメージが不明瞭/姫路市には事業案の壁打ちやスタートアップとのマッチング支援を行う機関がない/まずは地元が盛り上がるのが必須	→	ニーズ・シーズを把握する事業を令和8年度に実施、各支援団体や県立大と情報共有し、市が支援するに際して適切な方針・手法を検討中
PR戦略・アイデンティティ産業	外部事業者との連携による地場産業の活性化が重要 職人のモノづくりを無形資産化するのも一案	→	「アイデンティティ産業」において6次産業の記述を追加することで、域内外の他業種連携による発展を意識 「PR戦略」において、地域産業の技術の観光資源化も組み込めるよう意識した記述に